

北陸支部便り

北陸支部長 横山(矢野)雅則 (昭49・化学)

2024年の北陸は元日の大地震で新年のほろ酔い気分が吹っ飛び、不安と焦りに戸惑いながら状況の把握に努めたのだが、被害が大きく連絡がつかない。

能登地区在住者は5年ほど前の名簿では11名おり、地震による大火災のあったエリアに1人の在住者。安否が知りたいが道路事情が悪い中能登へ行くのは厳しく、無事を祈りながら復旧を待つことにした。自動車専用道路が全面開通の情報が入った直後の9月21日に能登を襲ったのは線状降水帯による集中豪雨での洪水被害とでW災害となり、また能登へ入れなくなった。

こんな状況での支部総会開催に支部役員は協議を重ねて『こんな時だからこそやろう』と開催の準備に取り掛かった。本部事務局の協力もあり案内状を発送、返信を受け取ると能登在住の会員から欠席だが3名からの返信があった。欠席でもこんなに嬉しい返信はなかった。

支部総会は10月27日(日)、福井パレスホテルにて当初予定人数7名の小規模な開催となると思ったが、当日は伊藤理事長、支部会員4名に減少、欠席者は体調不良者と手首骨折者の2名が生じた。支部総会は恒例の事項を進行役の長谷川義彦副支部長の開会宣言と開会の挨拶、伊藤理事長の挨拶で始まり2019年4月～2023年3月の4年間の活動報告と決算報告を承認、支部規約は一般社団法人東邦大学理学部鶴風会の発足により変更が必要となった箇所を説明し承認を受けた。

支部総会は時間がオーバーしたので本部が一般社団法人となり我々支部会員はどうなるのか等の話題は懇親会の席でとなった。法人化により組織内に支部の存在は明記されなくなったが、『支部への補助は今までと変わるものはない』ということを確認した。支部総会参加者数は4名と少なかったが、今回も初参加者が1名、前回も前々回も1名の初参加があったことは良い傾向だと思う。

また、支部の活動はもとより鶴風会本体としても低調な同窓会活動をどうやっていくかと話題となり、北陸支部ではとりあえずは総会案内状で欠席の返信をくれた人へのアプローチを始める。理学部鶴風会としては多方面から探っていく事を考えているとの伊藤理事長談であった。

最後に全員が低調な同窓会活動を動かす事を約束し、終了となった。

